

「2015年香港中文大学インターナショナルサマースクール(中国語コース)参加報告書」

京都大学総合人間学部2年 角田七海

私が今回このサマースクールプログラムに応募したのは、中国という土地や文化を実際に自分の肌で理解することが目的でした。帰国した今この3週間がなんであったのかを理解するにはまだ早すぎる気もしますが、出国前に期待していたよりもずっと多くのものを得られました。

まず、毎日うけていた中国語の授業ですが、なにより非漢字圏の学生とともに中国語を勉強するのは私にとって大きな刺激となりました。更に京大で受けてきた中国語の授業と比べて、中国語を話す、聞く、覚えたことを活用する、といった機会が圧倒的に多かったことで、私の中国語能力は格段に上達しました。もちろん香港の人たちは普段は広東語を話していますが、中国本土からの旅行者など普通語を耳にする機会も恐らく多々あり、街中で単語が聞き取れたり、簡単な会話ができたり、ならった言葉を使ってサマースクールの学生と会話をしてみたいといった些細な経験の積み重ねにより、更に学習意欲が刺激され、もっと勉強したい、あれもこれも伝えたい、と前向きに学習にむきあうことができました。

さらに私を大きく成長させてくれたと感じるのが、ほかの国の学生との交流です。このプログラムでは毎週末にツアーが組まれていたり、最後にお別れ会があったり、学生同士の交流を促す場が設けられており、ほかの学生とも常に交流を持つことができました。今回のプログラム期間中に私が心がけていたことのひとつが、日本人で固まらないということです。日本人学生が多くいることは予想していましたが、私自身英語が流暢に話せるわけでもありませんが、せっかく海外にいるのだからどンドンいろんな人と話をしてゆくように挑戦し続けました。時々とても辛く感じて何も話したくなくなってしまうときもありましたが、そんな私の挑戦する姿勢に気づいてくれたり認めてくれたりする人たちがいて、たくさんの外国人学生とも仲良くなることができました。毎日かわす些細な会話のひとつひとつが刺激に溢れ、あるいは自分の国のことについて改めて考えさせられ、かけがえない毎日でした。一緒に勉強した学生はお互いをリスペクトしあい向上心のある人たちが多く、さらにただ私も周りに影響を与えられているのだという自信が、授業や中国語にとどまらず、私の人生や将来に対する考え方を大きく変えてくれました。

この3週間を通じて、ひとつ大きな目標ができました。それは、中国に留学することです。以前から中国語・中国文化や中国情勢への関心があり、中国留学も考えてはいましたが、時間やお金など現実的な問題もあり、それほどはっきりしたものではありませんでした。しかしこのプログラムを終えて、もっと勉強したい。挑戦したい。という思いがとても強くなりました。自分の可能性を見つけられた気がするので、それをもっと押し広げてゆきたいのです。香港で出会った素敵な尊敬できる人たちに、私も負けたくないと思ったのです。

帰国してから数日は喪失感で呆然として何も手につかないほど、密度の濃い3週間でした。とても短い時間だったけど、今から長い時間をかけ香港で得たもので私の人生をさらに充実させてゆきたいです。このたびは、このような貴重な機会をいただきありがとうございました。